

今週の話題：

## &lt; ワクチンの安全性 &gt;

ワクチン安全性審議委員会：ワクチン接種は最も経済効果の高い感染症予防策の一つであるが、まれに副反応が出たり効かないことがある。近年人々はワクチン接種に伴うリスクに関心を持つようになった。同時に、技術の進歩により、ワクチンによる患者数減少に伴いワクチンの安全性も調査できるようになった。副反応に対して迅速かつ適切に対処されなければ、ワクチンが信頼されなくなり、感染症の劇的な増加をもたらしかねない。そこでWHOはワクチンの安全性に関する問題を科学的に厳しく評価するワクチン安全性審議委員会を設立した。

## &lt; マクロファージ性筋膜炎 (MMF) とアルミニウム含有ワクチン &gt;

MMFと呼ばれる新しい病変が報告された。MMFは、結晶含有物を含んだマクロファージによる筋膜炎の浸潤を特徴とする病変で、原因は不明である。成人患者では主に三角筋生検により検出される。マクロファージ内の結晶含有物はアルミニウム塩で構成されている。アルミニウム塩が、ワクチンを三角筋に接種する際のアジュバントとして使用されることから、MMFがワクチンの筋肉内接種に対する異常反応だとする仮説が立てられた。

ワクチン安全性審議委員会は、次のように考察している。MMFの誘発原因やメカニズムはまだ明らかになっていない。MMFはフランスでのみ報告されており、同様にワクチンが接種されている他の国では見つかっていない。自己免疫疾患との関係も考えられる。現時点では、アルミニウム含有ワクチンの接種方法について、変更を奨励するに足る論拠は何もない。様々な側面から、さらにMMFを調査、研究するように強く推奨する。

## &lt; ヒトペスト、1997年 &gt;

1997年に、WHOに147国からヒトペストの報告があり、症例数は5419例、うち死亡例は274例で、増加傾向にある。表1(ヒトペスト、世界の症例数(死亡者数)、1983-1997、WER参照)に1983-1997年の過去15年間に発生したヒトペストの国別分布を示す。

アフリカ：1997年は、マダガスカル、マラウイ、モザンビーク、タンザニア共和国、ザンビア、ジンバブエの6カ国から、510例、うち死亡216例が報告された。これは全世界のそれぞれ94.1%と95.3%に相当する。最も症例数の多いマダガスカルでは主に9-4月にかけて流行した。

アメリカ：ボリビア、ペルー、アメリカ合衆国から、世界の0.8%に相当する報告があった。

アジア：中国、インドネシア、カザフスタン、モンゴリア、ベトナムのから世界の5.1%に相当する報告があった。

## &lt; カナダにおけるネズミチフス菌 DT104 (ST DT104)、1997年 - 1998年 &gt;

ST DT104によるヒトおよび動物の食中毒が流行した。カナダのブリティッシュコロンビア内で発生した症例について、12ヵ月にわたり、菌の種類、患者の地理的分布、患者数等が調べられた。分離されたST DT104のうち62%が多剤耐性であり、この割合は増加傾向にある。地理的には全体的に低率に分布したが、家畜との接触が危険因子として考えられる高患者発生率の農業地域があった。患者の年齢については、サルモネラ菌感染者が1歳未満に多いのに対して、ST DT104およびその他のネズミチフス菌感染者は1-4歳児に多い。

流行ニュースの続報

## インフルエンザ

ブラジル(1999年9月30日)<sup>1</sup>：8月前半の局地的流行以来、流行は散発的である。確認されたインフルエンザ患者は、主に、non-subtyped A型であった。

カナダ(1999年9月26日)<sup>2</sup>：9月には、non-subtyped A型の分離は、数例しかなかった。

チリ（1999年9月20日）<sup>2</sup>：Antofagasta及びValparaisoにおいて、散発的流行が見られた。3名のA型インフルエンザ患者、2名のB型インフルエンザ患者が免疫蛍光抗体テストにより診断された。

デンマーク（1999年10月4日）<sup>3</sup>：9月の最後の週に散発的流行が報告された。インフルエンザ様疾患についての相談は、予想より少なかった。

参照<sup>1</sup>No. 32, 1999, p. 271. <sup>2</sup>No. 34, 1999, p. 288. <sup>3</sup>No. 37, 1999, p. 311.

### 流行ニュース

#### アメリカ合衆国におけるウェストナイル熱

9月1日にセントルイス脳炎として報告されたニューヨーク市の流行は、ウェストナイル熱であった。これは、鳥からウェストナイル様ウイルスが検出され、再検査が実施されてわかった。いずれの患者もニューヨーク市もしくは周辺地域の住民である。

図 1 齧歯類動物におけるペストの浸淫地



WHOに報告されるヒトペストの症例数が年々増加している。この傾向は浸淫地における動物から伝播されたペスト症例数の実際の増加及びWHOへの報告率の増加と関係していると考えられる。

表 1: ヒトペスト 世界各地で報告された患者数(及び死亡数)の年次変化 1983年 -1997年については、[WHO参照](#)

(藤井敦子、安藤哲司、小西英二)